

2026 年 1 月 25 日午前 10 時 30 分

降誕節第 5 主日 主日礼拝

司会 植松みよ

奏楽 徳江由利

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前 奏

招きのことば 詩編 149:1-5

讃美歌 15(1-5)「みことばにより」 一 同

交読詩編 29:1-11(P.34/30)

祈り 司会者

《関東教区お祈りカレンダー》

東松山教会 越生教会 毛呂教会

(主の祈り)

讃美歌 201「天使の言葉も」 一 同

聖 書 旧約:申命記 30:11-15(P.329)

新約:マルコ 1:21-28(P.62)

メッセージ『近くにある神の言葉』

祈り 川上 盾 牧師

讃美歌 432「重荷を負うもの」 一 同

献 金 一 同

(献金感謝の祈り)

信仰告白(インドネシアの信仰告白②) 一 同

頌 栄 29

祝 祷

後 奏

報告・紹介

川上 盾 牧師

<招きのことば> 詩編 149:1-5

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。イスラエルはその造り主によって喜び祝い、シオンの子らはその王によって喜び躍れ。踊りをささげて御名を賛美し、太鼓や堅琴を奏でてほめ歌をうたえ。主は御自分の民を喜び、貧しい人を救いの輝きで装われる。主の慈しみに生きる人は栄光に輝き、喜び勇み、伏していても喜びの声をあげる。

《1月礼拝当番》 伊藤普史 徳島恵子

村上直子 齋藤眞理子

横田喜一 横田こずえ

《今週の集会・行事》

◎ 本日 13:00 CS午後礼拝(スタッフ会議)

◎ 本日 16:00 群馬地区委員会(ZOOM)

◎ 27 日(火) 牧師、地区社会部委員会(ZOOM)

◎ 29 日(木) 10:30 紅雲町集会

◎ 29 日(木) 牧師、上毛愛隣社理事会

◎ 30 日(金) 10:00 地区婦人部臨時役員会議
(高崎教会)

◎ 31 日(土) 10:00 会堂清掃 A 組

◎ 31 日(土) 牧師、群馬の森追悼碑集会

《次週の主日》

◎主日礼拝 10:30

メッセージ『平和の種をまこう』

聖書:新約:マルコ 4:1-9(P.66)

讃美歌 16, 53, 412, 24

交読詩編 126:1-6(P.147/143)

司会:田村啓 奏楽:徳江由利

◎ 2 月定例役員会 礼拝後

◎ 関東同信会 16:00(磯部)

《報 告》

◎ 2.11. 教会内外の集会

2 月 11 日は現在は「建国記念の日」ですが、80 年前の戦時中には「紀元節」と呼ばれ、軍国主義の象徴的な一日でした。日本基督教団も戦時国策の一環として合同した経緯があり、「戦勝祈禱会」や「戦闘機奉納献金」を行なうなど、戦争協力の道を歩んでしまった痛恨の歴史があります。このことへの反省から、戦後、国が「紀元節」を「建国記念の日」として復活させる動きの中で、教会はこの日を「信教の自由を守る日」と呼び、教会内外の人たちとも共働して、平和を願う集会を開催してきました。今年も地区の集会、市民集会が予定されています。どうぞお出かけ下さい。

*** 群馬地区社会部主催 午前 10:30 高崎教会**
講演会「平和共生を歩むパレスチナ」

— 抵抗運動と入植者植民地主義の状況 —

講師:村山盛忠先生(隠退教師,90 歳,大阪より)

*** 2・11 市民のつどい 13:30 県教育会館**

映画『靖国 YASUKUNI』上映会

リ・イ監督/2007 年/123 分/日中合作

なお、関東教区の他地区でも 2.11.集会が行なわれます。一覧をまとめて掲示しておきました。どうぞご覧下さい。

《消 息》

◎ 松井忠男さん…18 日、主のもとに召されました。享年 94 歳。葬儀は川上牧師の司式により、メモリード天川大島で行われました。ご遺族に主の慰めを祈ります。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	52	22	28,161
地区教会協議会	8 / 前橋 (全体 68)		

《メッセージ》「主の招く声」

エレミヤ 1:4-10, マルコ 1:14-20(1 月 18 日)

▼私たちの人生には、何度か人生の行く末に関わる決断を下す時がある。大抵は自分で考えて決断することが多いが、信仰の世界ではそれをひっくり返して、「神さまによってこの道が示された」と受けとめる感性がある。▼ドイツ語で「仕事」を表す「ベシレーフ」という単語は、単に賃金取得のための労働ではなく、「召命」「天職」と訳される意味を持つ言葉である。各人が担う仕事は神によって与えられたもの、という受けとめ方である。この労働観が勤勉な労働者を生み、資本主義の発展に寄与した、と 19 世紀の経済学者、M.ウェーバーは論考した。▼「召命」—それはしばしば、自分の望まない方向に、できれば行きたくない道に向かっていくこともある。今日の旧約のエレミヤは、まさにそのような預言者であった。▼エレミヤが活動したのは、ユダの国がシベロニアにより滅ぼされようという時代であった。そんな時にエレミヤはこの苦難の中に御心が示されている。悔い改めよ！」と語った。ウケない、むしろ反感を買う預言の言葉。できればやりたくない仕事。エレミヤは「私は若者に過ぎません」といつて一度は神の召命を拒もうとした。しかしそれでも神の強い促しを受け、ついには預言者として歩み決意をするのである。▼新約はシモン(ペトロ)たち弟子が選ばれる場面。これから過酷な宣教の旅に向かうに際して、イエスは弟子を招かれた。最初の 4 人は漁師である。「あなたがたを人間を取る漁師にしよう」。招かれると、4 人は即座にイエスに従った。本分である漁師の仕事や、家族を捨てて、まっすぐに従った…そのようにも読める聖書の箇所である。▼はたして彼らはイエスの弟子となる十分な備えができていたのだろうか？むしろ人々から「ダシヤ(救い主)」と称され、未来のヒーローと目されるイエスから、直接声をかけられて、舞い上がってその場の勢いで従った…それが真相に近いのではないと思う。しかしそこに、「この人について行こう。この人に賭けよう」という真摯な思いがあったことは確かであろう。▼エレミヤは召命の何たるかを知っていた。だから躊躇した。ペトロたちは知らなかった。だから即座に従うことができた…そういうことも知れない。▼両者の姿は、召命に応える者の 2 種類の姿を表しているようにも思える。「イヤイヤジブン系」(エレミヤ)と、「イケイケドンデン系」(ペトロたち)。しかしにもかくにも彼らは召命に応え、預言者の働き、初代教会の働きを担う者となったのである。▼ところでこの「召命」とは、誰か特定の人(牧師、宣教者)にのみ与えられるものなのだろうか。「主の招く声」、それは誰にでも示されているのではないから、しかし私たちはしばしばそれを見逃し、聞き逃してしまふ。まず招きに気付くこと…そんな心を求めよう。そして招く声に気付いたならば、大きな立派なことは無理でも、自分に負える小さな事ならば、5 回に 1 回くらいは担える者となる。